

中一 国語

竹取物語 第二回

講師 .. 羽場 雅希

◆ 今日の授業で学ぶこと

・ 竹取物語

◆ 竹取物語

- ・ 作者は不明。
- ・ 我が国最古の仮名書きの（仮名文字を使った）物語。
- ・ 「かぐやひめ」のもとになった話。

今は昔、竹取の翁おきなといふものありけり。
野山にまじりて竹を取りつつ、よろづの
ことに使ひけり。名をば、さぬきのみや
つことなむいひける。

◆ 「蓬萊の玉の枝」

かぐや姫ひめに熱心に求婚こんした五人の貴公
子たちのうち、くらもちの皇子みこは、蓬萊ほうらい
の玉の枝を探しにいくと言って船出する
が、実は、にせの玉の枝を作らせていた。
皇子は、翁おきなと姫に、架空かの冒険談ぼうを語る。

(注) 蓬莱の玉の枝——根が銀、茎が
金、実が真珠しじゆでできていると言
われる木の枝。蓬莱(蓬莱山)は、
中国の伝説上の理想郷。



次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

かぐや姫に熱心に求婚した五人の貴公子のうち、くらもちの皇子は、蓬萊の玉の枝を探しにいくと言って船出するが、実は、にせの玉の枝を作らせていた。皇子は、翁と姫に、架空の冒険談を語る。

これや(これこそ)① わが求むる山ならむと思ひて、^(a)さすがに(やはり)恐ろしく② おぼえて、山のめぐり(周囲)をさしめぐらして(こぎ回って)、二、三日ばかり、見歩くに、天人のよそほひ(服装)したる女、山の中よりいで来て(山の中から出てきて)、銀の金錠^(まり)(おわん)を持ちて、水をくみ歩く。これを③見て、船より下りて、「この山の名を何とか申す()^(c)。」と問ふ。女、答へていはく、「これは蓬萊の山なり。」と④答ふ。これを聞くに、うれしきことかぎりなし(うれしくてたまりませんでした)。

その中に、この取りてまうで来たりしは、いとわろかりしかども、⑤のたまひしに^(たが)違はましかばと、この花を⑥折りてまうで来たるなり。

〔後半部分の現代語訳〕

その中で、この取ってまいりましたのは、

、（ ）が

おっしゃったものと違ちがってはいけないう（と思い、この花（の枝）を折ってまいったのです。

（注）蓬萊の玉の枝：根が銀、茎が金、実が真珠
できているといわれる木の枝。蓬萊（蓬

萊山）は、中国の伝説上の理想郷。

【第一問】

波線部(a)～(c)をそれぞれ現代仮名遣づかいに直し、すべて平仮名で書きなさい。

(a)	
(b)	
(c)	

【第二問】

傍線部ぼうせんぶ①「わが求むる山」とは何のことを指すのか、文中から四字で抜き出して書きなさい。

--

【第三問】

傍線部⑤「のたまひし」、傍線部⑥「折りてまうで来たる」の動作主（主語）はそれぞれ誰か答えなさい。

⑥ ⑤

のたまふ

意味：おっしゃる。

用例：のたまひしに違はましかばと

（

）